

小松市文化財保存活用地域計画

Komatsu City Cultural Property Preservation and Revitalization Plan

かわら版

第2号
令和5年3月

小松市では、市内の文化財の保存・活用推進を目的に「小松市文化財保存活用地域計画」の作成を進めています。かわら版では、検討の途中過程を市民の皆様にお知らせしていきます。

地域の歴史を探る！第1回ワークショップ



グループワークの様子



講師の朝倉由希・公立小松大学准教授



公立小松大学・大学生によるグループワークの発表

令和5年1月22日に第1回ワークショップを開催し、歴史文化の継承に取り組む団体や関心の高い市民の方々、約40名の方が参加しました。市内各地域で大切にされている“身近なタカラ（文化財）”を集め、それらをつなげるような小松市ならではの歴史文化のテーマやストーリーを考えることで、地域団体や住民の方々と協働で文化財の保存・活用に取組むことを目的に実施しました。

講師の朝倉由希公立小松大学准教授による、文化財保存活用地域計画を作成する背景や計画についての解説の後、大学生7人も参加し、グループにわかれて意見交換を行いました。それぞれのグループでは、参加者の住む地域の行事やお祭り、白山への眺望や信仰、残したい地場産業など、様々な意見が出されました。最後の各グループの発表では、「町民が後押しする観光でリピーターを確保しよう」「交易のまち小松・古き良き我がまちを後世に伝えよう」といった提案がありました。

今回の意見・提案等をもとに、文化財リスト作りや保存・活用の方針やテーマの検討を行っていくとともに、来年度も、引き続き実施し、より具体的な取組などについての意見交換を実施する予定です。

第2回地域計画策定協議会を開催しました

令和5年2月2日、計画の策定に向けて、小松市文化財保存活用地域計画策定協議会を開催しました。今年度の文化財調査等の結果の報告や課題や方針について協議を行いました。

委員からは、「古い時代から新しい時代まで保存すべきものがたくさんある」「材料にはことかかない」「たくさん出された資源から魅力的なストーリーをいかに紡ぐか」といった意見が出されました。令和5年度は、小松市らしいストーリーを肉付けしていき、具体的な取組などについて協議を行っていきます。



令和4年度調査の報告

地域の方々へのヒアリングを行いました

計画の作成にあたって、市内の文化財リストを作成しています。地域に眠る文化財の把握を目的に、ヒアリングを実施しています。

令和4年度には、13地区・団体を対象にヒアリングを行いました。それぞれ関心の高い方にお集まりいただき、地区で作成している資料等を提供いただくなど、たくさんの文化財を集めることができました。地区での取組の課題などについてもお聞きし、「担い手や技術者が不足」「昔のことを知っている人が少なくなっている」「祭礼のやり方も変わりつつある」「文化財単位だと限界がある、つながりやネットワークを活用したい」といった状況も伺いました。

今後も引き続きヒアリングを行っていく予定です。



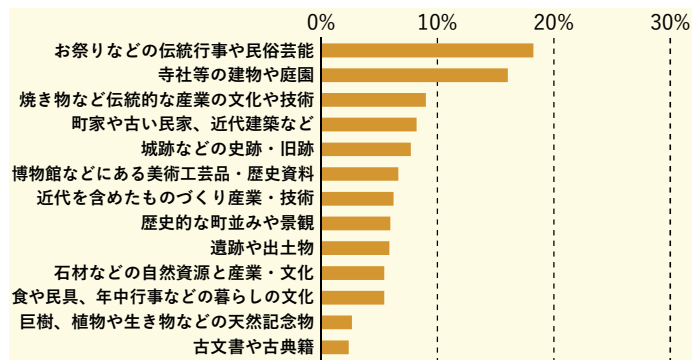
地区でのヒアリングの様子

小松市の歴史文化に関するアンケート調査を実施しました

幅広い市民の方々を対象に、歴史文化（文化財）に対する興味や関心、今後の取組に対する意見を把握することを目的にアンケート調査を実施しました。大学生、小学生の保護者、町内会長、各種団体等の約2,500人に配布し、652名から回答をいただきました。回答の一部を以下に紹介します。

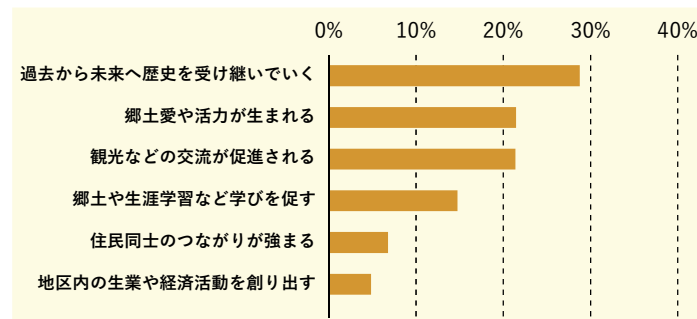
小松市らしい歴史文化

伝統行事・芸能、寺社の建物・庭園の次に、焼き物などの産業・技術が多いのが市の特徴ということが出来ます。



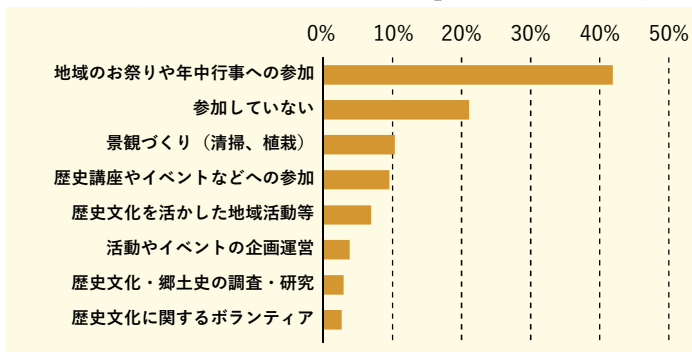
歴史文化がもたらす効果

歴史の継承が最も多くなっています。若い世代では、生業・経済活動への意識も高く見られました。



歴史文化に関連する活動への参加状況

約40%がお祭りなどに参加していますが、その他の取組の参加は少なく、約20%は「参加していない」という回答でした。



保存・活用の重要なテーマ

次世代への継承が最も多く、次いで観光、地域のまちづくりでした。

